

わ

が

街

わ

が

故

郷

浅間山に抱かれた高原の町

みよた
ミネベア株式会社と御代田町

ミネベア株式会社と軽井沢製作所のある御代田町についてご紹介いたします。

《会社の紹介》

〒389-0293

長野県北佐久郡御代田町大字御代田4106-73

ミネベア株式会社 軽井沢製作所

会社のあゆみ

当社は、我が国最初のミニチュアボールベアリングの専門メーカーとして、1951年に東京都板橋区小豆沢で操業を開始いたしました。当初、国内市場を対象に小規模な生産活動を続けておりましたが、1950年代末からの米国向け輸出開始を契機に、事業は順調に拡大し、1963年には御代田町に新工場(軽井沢製作所)を新築し、生産を開始いたしました。その後、1971年米国で生産開始、1973年シンガポールで生産開始、1982年タイで生産開始、1994年中国上海市で生産開始等と海外展開を続けて参りました。

この間、事業の多角化が進み、現在では各種ベアリング(ミニチュアボールベアリング、小径ボールベアリング、工作機械・航空機用ボール・ローラーベアリング、航空機用ロッドエンド・スフェリカルベアリング等)の総売上占到める割合は、30%を下回っておりますが、外径

22mm以下のミニチュア・小径ボールベアリングでは、世界の10工場で生産をし、月産1億7千万個、世界シェアトップのメーカーであります。現在、月産1億8千万個の生産を目指しております。

ベアリング以外では、コンピュータ用キーボード、ファンモーター、HDD(ハードディスクドライブ)用スピンドルモーター、スピーカー、各種小型モーター、ライティングデバイス、計測機器等を海外で量産し、世界市場で大きなシェアを占めています。

今後も、軽井沢製作所をマザー工場として活動を続けて参ります。



ミネベア株式会社 軽井沢製作所

《御代田町の紹介》

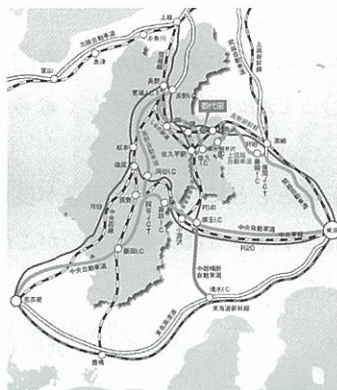
御代田町は、標高700~1,300メートルの位置にあり、日本屈指の活火山である浅間山(標高2,568m)の南麓に広がる、自然豊かな地域に

あります。

長野県の東の玄関口にあたり、東は軽井沢町に、西は小諸市に、南は佐久市に、北は群馬県嬬恋村の2市1町1村に接しています。人口は、約1万4千名です。

大気は澄み渡り、気候は内陸の高原地帯にあるため年間を通じて冷涼であります。寒暖の差は大きいです。降水量は年間1,200mm前後と少ないです。風は季節ごとに趣を変え、四季を通じて自然が織りなす折々の変化に出会うことができます。

町およびその周辺には、テニスコート、ゴルフ場、スキー場があり、1年間を通じてスポーツが楽しめます。



御代田町の位置

精密機械工業の町

御代田町の冷涼乾燥な気候に適した精密機械および、食品工業が主な工業です。林間に立地

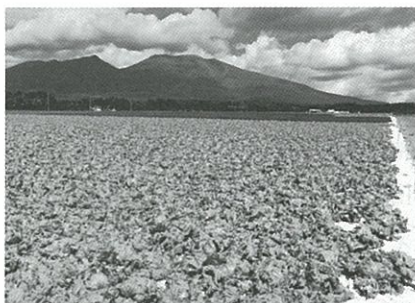


御代田町 空撮

する工場、豊かな自然環境の中にあって、人は働く意欲が湧き、優れた発想で最先端技術を駆使し、常に新たなことにも挑戦し続けられています。

高原野菜の町

御代田町は長野県有数の高原野菜の産地として発展してきました。そこで生産されるレタスの瑞々しさ、歯切れの良さは格別で、高級ブランド品としての地位を確立しました。



高原野菜畑

浅間山

浅間山は、数万年間しきりに噴火を繰り返している日本の代表的活火山です。江戸時代、天明3年（1783年）に浅間山は有史以来2番目という大噴火を起こしました。この噴火は「天明の浅間焼け」として、世界的にもよく知られた大噴火です。噴火によって、群馬県の鎌原村はそっくりと土石なだれにのみ込まれました。利根川には火山泥流が流れ込んで、泥流域で1,000



浅間山の噴火（昭和48年）

名以上もの人が犠牲となりました。

最近では、平成16年9月1日に中噴火しましたが、風向きの関係で御代田町への影響はありませんでした。

小田井宿と小田井宿祭り

江戸五街道の一つ中山道が、御代田町を南下しています。

小田井宿は、日本橋から数えて中山道の21番目の宿場です。旅籠が5戸だけの小宿であったため、大名一行は隣の追分宿に宿泊、姫君たちだけが泊まったことから、「姫の宿」とも呼ばれていました。千本格子の付まいが残り、今でも当時の面影を偲ぶことができます。

小田井宿には、皇女和宮から拝領された人形が伝えられています。皇女和宮は、第14代將軍徳川家茂にご降嫁のため、江戸へ向かわれました。文久元年(1861年)1月8日、昼食を召されるため、小田井宿にお立ち寄りなされた折、この人形を賜れたと言われています。

この伝承と、小田井宿ができてから400年を記念して、地元の有志によって始められたのが小田井宿祭りで、毎年8月16日に開催されます。

祭りには、時代装束を身にまとった参加者たちが、皇女和宮から賜った人形を籠にのせ行列するというもので、往時の賑わいと華やかさを偲ぶことができます。



小田井宿祭り

龍神まつり

龍神まつりは新しく作られた祭りです。その拠り所となっているのは、佐久地方に古く流布されている「甲賀三郎」の伝説であります。伝説の概要は次の通りです。

浅間山の麓に住んでいた甲賀三郎が、兄二人に騙され蓼科山の深い穴へと落とされてしまう。

地底をさまよい歩いた三郎は一筋の光を見つけ懐かしい地上へと頭を出した。そこが真楽寺の大沼の池である。自分の姿を水面に映すと龍にと変わっていた。

龍に変わった三郎は愛する妻を探していた。一方三郎の妻も三郎を探し求め諏訪湖に身を投じて龍になっていたのである。

それを知った三郎は喜び勇んで諏訪湖に行き妻と巡り合って湖の中で仲睦まじく暮らした。

この伝説をもとにして青年団等が長さ20メートルの龍をつくって舞い始めたのがこの祭りの始まりです。



龍神まつり

現在の「龍」は3代目で長さが45メートルと日本一の「龍」になりました。長野パラリンピックの閉会式で場内を一周したので有名です。

この祭りはまず伝説発祥の地、真楽寺で「龍」の開眼式が行われ、龍神の舞を披露したあと、会場となる御代田駅前等の会場で最高の盛り上

がりをみせます。花火を打ち上げ、爆竹、煙幕等で雰囲気を作り龍神太鼓が鳴り響く中、勇壮な舞が繰り広げられます。銅鑼の音に合わせて「龍」は頭を上げ、とぐろを巻き、大きく胴体をうねらせ、太鼓の激しい轟きにのたうちまわり、祭りはクライマックスを迎えます。

この祭りは御代田の夏の風物詩としてすっかり定着しています。

